

川崎市青少年科学館 プラネタリウムの有効活用

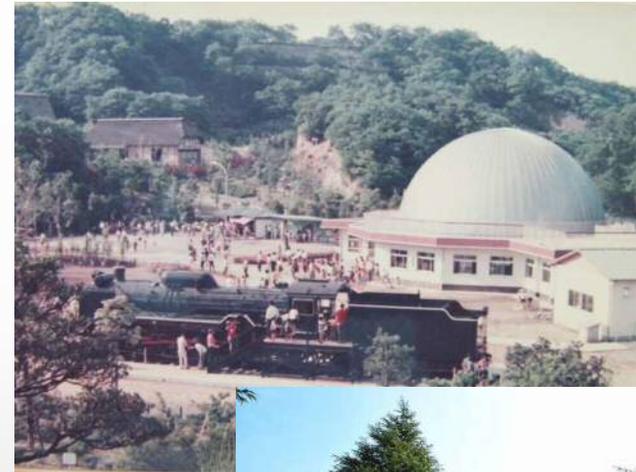
令和2年8月31日

川崎市PPPプラットフォーム意見交換会



川崎市青少年科学館 通称：かわさき宙（そら） と緑の科学館

- 川崎市で唯一の自然科学系登録博物館
- 昭和46（1971）年開館
令和3（2021）年50周年
- 博物館としての基本機能（学芸業務）
 - 資料を集める（収集保存）
 - 調べる（調査研究）
 - 伝える（展示・教育普及）



自然・天文・科学の3つを柱にした事業

生田緑地観察会
植物・動物等の資料収集



天体観察会、講座
天体観測、天文資料収集

サイエンス教室、
ワークショップ
科学実験・工作の教材開発



世界最高水準のプラネタリウム

- 2012年リニューアル
 - 川崎市出身プラネタリウムクリエイター大平貴之氏開発の最新式プラネタリウム「MEGASTAR-III FUSION」
⇒1500万個の恒星
 - NASA等開発の最新宇宙データベースを搭載した4Kデジタルプラネタリウム
- ↓
- 地上最高の星空から宇宙の果てまで現代天文学のすべてをシミュレーション



これまでのおもな取組

- 星空の下でのコンサート（川崎市フランチャイズオーケストラ 東京交響楽団とのコラボレーション）
- 4Kデジタルシステムを活用したオーロラトークイベント
- 図書館（読み聞かせ）、日本民家園（お月見等）と連携したイベントの開催等



さらなる魅力向上のために

- 投影回数の増加、団体利用対象の拡大など利便性の向上
- 星空、映像システムを活用したイベントの開催
- 大学等の研究機関と連携し、プラネタリウムの設備、機能を活用した研究活動の推進
- ホームページ等への広告掲載など企業広告による歳入確保



意見交換のテーマ等

- プラネタリウムの活用手法についてのアイデア
- 民間参画の可能性、課題
- プラネタリウムや館ホームページを活用した企業
広告、広報推進の可能性

